

本校のグランドデザイン（学校・各教科等）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00055805

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



「学校教育目標」と「平成30年度重点目標」に向けて

自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する。

目指す 生徒像

自ら考え学ぶ生徒 お互いに認め合い、助け合う生徒 心身ともたくましい生徒

- ・ ESD を基盤にしなが、各教科等の連携による体系的な伝統文化に関する教育実践研究を行う。
- ・ 生徒会活動・学級活動等の場面で生徒の自主的・主体的な取り組みを引き出す。
- ・ 学校教育学類、教職実践研究科との連携を推進しつつ、より一層充実した研究協力体制を目指す。
- ・ 校内の安全管理を徹底し、生徒が安心して活動できる環境づくりに常に配慮する。

豊かな人間性

自分を律しつつ、思いやりの心を持ち、よりよい人間関係を築いて共に生きて行こうとする態度で、将来に向け自己実現を図っていく生徒。

- ・ すべての教科等が連携して行う道徳教育の充実
- ・ 生徒会活動・学級活動・学校行事など生徒が主体となっって行う活動
- ・ 地域や国内外の学校との交流

健康・体力

自他の安全に配慮し、心身の健康に対し主体的に関わる生徒。

- ・ 教育活動全体で行う安心・安全な環境の整備
- ・ 家庭や地域と連携した健康教育の推進
- ・ 教育相談の充実

資質・能力の育成

確かな学力

目指す子供の姿

グローバルな視点を持ち、他者と協働して問題を解決する姿。

●何ができるようになるか

- 育成を目指す資質・能力
- 社会的使命を果たすことができる力
- 学んだことを社会生活のなかで活かすことができる力
- すべての学習の基盤となる汎用的な能力
- 現代的な諸問題に対処できる力
- グローバル社会で生きるための資質・能力を育成する。

●何が身に付いたか

- 学習評価を通じた学習指導の改善
- 生徒自身が自らの学びを振り返る。
- 教育課程や学習・指導方法の評価と改善を行う。
- 多様な学習活動を対象とした、多面的・多角的な評価を行う。

子供の実態

学習全般に関する学習意欲は高いが、学んだことを他者と共有する力が弱い。

●何を学ぶか

- 教育課程の編成
- 各教科等の枠組みを踏まえた学習内容を学ぶ。
- 伝統文化を題材として、各教科等を横断して学ぶことのできる教育課程を編成する。

●どのように学ぶか

- 教育課程の実施
- 3年間で身に付ける資質・能力を明確にして学ぶ。
- 単元や題材を見通した学びの工夫をする。
- 伝統文化を通して、社会とつながる課題を設定する。

子供の発達をどのように支援するか

- 配慮を必要とする子供への指導
- 全職員の協働的な関与と支援
- 附属特別支援学校や金沢大学教員の協力
- 附属学校園との情報共有や連携
- 外部の専門機関との連携

実施するために何が必要か

- ・ 校内研究会の充実
- ・ 国立教育政策研究所をはじめとした研究機関等との協力
- ・ 金沢大学との研究協力
- ・ 地域や家庭、海外提携校との連携・協働

安心・安全を守る

- ・ いじめ防止基本方針の策定
- ・ 避難訓練などの実施と工夫改善
- ・ 計画的な安全計画
- ・ 各種講習会などにおける外部団体の協力
- ・ 保護者や外部の人材を活用した安全対策の充実

開かれた学校づくり

- ・ オープンスクールや懇談会などを活用した、地域・家庭との連携
- ・ 学校教育学類、教職大学院との協働
- ・ 学校公開、学校説明会の充実
- ・ 学校評議会
- ・ 金沢大学（附属学校園運営委員会や学類教員など）との連携
- ・ 研究成果の国内諸学校、教員への提供

目指す子供の姿

- ・言葉がもつ価値を認識することで、多様な見方・考え方ができ、協同して課題を解決する生徒。

●何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 言葉によって自分の考えを形成し、交流することができる力。
- 場面や状況に応じて、適切な言葉を選んで表現することができる力。
- 歴史や生活の中で継承されてきた言語の能力を向上させていこうとする姿勢。

●何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 評価のさらなる充実を図り、生徒が学んでいくうえでの見通しを持てるように工夫する。
- 相互評価、自己評価を活用し、自らの学びを振り返るようにする。

子供の実態

- ・伝え合う力はあるが、多様な見方・考え方が苦手な傾向にあり、共有し深化させる面で課題が残る。

●何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 言語文化や古典を題材とし、学年を追って自国の伝統文化に対する考えを深化させ、発信することができるよう学習する。
- ものの見方や考え方に触れ、他者と自分の考えを比べることで、より広い視野を持って自分の意見を形成できるよう学習する。
- 各教科等とのつながりを踏まえたカリキュラムを編成する。

●どのように学ぶか

○教育課程の実施

- 文章を読んで理解したことや考えたことについて、考えを伝えあったり、文章にまとめたりすることで自分の考えを広げ、深める。
- 言語活動の取組を通して、伝統文化に対する関心を深め、自らの考えを発信していく学習を実施する。

目指す子供の姿

- ・社会的事象を多面的・多角的に捉え、自らの視点を持つことができる。
- ・社会科での学びを生かし、新たな価値を創り出すことができる。

●何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する力。
- 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養。
- 国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質。

●何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 評価のさらなる充実を図り、生徒が学んでいくうえでの見通しを持てるように工夫する。
- 相互評価、自己評価を活用し、自らの学びを振り返るようにする。

子供の実態

- ・多くの社会的事象をおおまかに整理し、他者と共有しながらつかむことが苦手。
- ・話し合い活動やレポートに意欲的に取り組むことができる。

●何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 伝統文化を学ぶことを通して、「地理的要因」や「時間軸で歴史的事象」を捉え、これからの社会づくりにつなげることを学習する。
- 各教科等とのつながりを踏まえたカリキュラムを編成する。

●どのように学ぶか

○教育課程の実施

- 自分の言葉でまとめたり、説明したりする活動を多く実施する。
- ペア学習やグループ学習を取り入れ、話し合い活動を多く実施する。

目指す子供の姿

- ・身のまわりの問題を数学的視点で捉え、数学を用いて問題を解決できる。

●何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 日常生活の問題を解決するために、数学的な視点を持つことができる力。
- 数学的な根拠を明らかにしながら、問題を解決することができる力。

●何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 数学的な根拠を用いて説明したり、問題を解決することができたかを振り返る。
- 見通しを持って、問題を解決することができたかを振り返る。
- 伝統文化を題材とした問題解決的な授業の中で、数学的な力につながったかどうか、授業の在り方についての形成的評価を行う。

子供の実態

- ・問題解決に必要な知識・技能は習得している生徒が多いが、それが実際の問題解決のツールとして活用できない生徒もいる。

●何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 基本的・基礎的な知識・技能を身に付ける。
- 知識・技能を用いて問題を解決する方法を学ぶ。
- 伝統文化を題材として、問題を解決する授業の構築の際、他の教科等との連携を図る。

●どのように学ぶか

○教育課程の実施

- 正しい数学用語を用いて、学習内容をまとめ、説明の根拠として使えるようにする。
- 小テストなどを通して、計算技能などを身に付ける。
- 伝統文化などの身のまわりの問題を通して、数学を用いて問題を解決する。

目指す子供の姿

- ・理科での学びを活かし、主体的に自己改善することができる。

●何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 自然の事物・現象を質的・量的な関係や時間的、空間的な関係などの科学的な視点で捉えることができる力。
- 身近な題材を科学的な視点で捉え、説明することができる力。
- 自然事象に対する知識や技能を活用する力。

●何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 身近な現象を科学的な視点で考察する。
- 自己評価を活用し、自らの学びを振り返るようにする。

子供の実態

- ・理科的な知識は豊富なものの実生活との結びつきが弱い。

●何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 身近な題材や伝統文化とのつながりを図り、日常生活の中で活用する力を育む。
- 各教科等とのつながりを踏まえたカリキュラムを編成する。

●どのように学ぶか

○教育課程の実施

- 身近な事象を科学的な視点で考察する。
- 学習内容に伝統文化との関わりを持たせることで、理科的な興味・関心を高める学習を行う。

目指す子供の姿

- ・音や音楽を実生活と結びつけて考えることのできる生徒
- ・多様な音楽を尊重できる生徒

●何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力
- 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能
- 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる力
- 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

●何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 知識及び技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 主体的に学習に取り組む態度

子供の实態

- ・音楽に対する関心が高い
- ・新たな知識を得て課題を解決することに意欲的
- ・自らつくり出すことに消極的

●何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 3年間を通して、A 表現（歌唱、器楽、創作）B 鑑賞〔共通事項〕において示された内容を学ぶ。

●どのように学ぶか

○教育課程の実施

- 音楽に対する感性を働かせながら、表したい音楽表現を見いだす見通しを持って協働的に学習する。
- 比較したり関連付けたりして、要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感したりして学習する。
- 生徒が見方・考え方を働かせることができるようにすることによって、音楽科の本質に迫る学習の実現を図る。

目指す子供の姿

- ・豊かな感性や情操を基盤に、美術を愛好する心情を持った生活を送ることができる。
- ・自分自身の能力・経験をもとに、課題に対する最適解を考えられる。

●何ができるようになるか

○育成を目指す資質・能力

- 美術に関わる基礎的・基本的な知識・技能を習得し、表現活動や鑑賞活動にそれを活用する力。
- 豊かに発想・構想する力。
- 身の周りの美しい事象に気づく感性と、それを愛好する心情。
- 素材、色、形、大きさ、構成などの造形要素のよさを感じ取る感性。
- 自国や郷土の伝統や文化を尊重、伝承し、新たな文化を創造しようとする態度と、他国の歴史や、異なる伝統や文化に対する敬意の態度。

●何が身に付いたか

○学習評価を通じた学習指導の改善

- 美術に関わる基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
- 豊かな発想・構想で独自の考えを持つことができる。
- 身の周りの美しい事象に気づき、それを愛好する。
- 素材、色、形、大きさ、構成などの造形要素のよさを感じ取る。
- 自国や郷土の伝統や文化を尊重、伝承し、他国の歴史や、異なる伝統や文化に対しても敬意の態度を持つ。

子供の実態

- ・時代や多勢の流行に対する関心は高いが、自らの価値観で美しさを感じ、自己表現することが苦手。
- ・よりよいものを求める意欲は高いが、簡単に早く結果を出す方法を求め、試行錯誤することが苦手。

●何を学ぶか

○教育課程の編成

- さまざまな事象の美しさに素直に感動する感性を学ぶ。
- 自分自身の考えや価値観をしっかり持つと同時に、異なる考え方や表現のよさを受け止めようとする姿勢を学ぶ。
- 美術の基礎的・基本的な知識・技能を学ぶ。
- 自分自身の感性をもとにした発想・構想を学ぶ。
- 基礎的・基本的な知識・技能を活用して、自分の考えや意図を具体化する表現を学ぶ。

●どのように学ぶか

○教育課程の実施

- 表現活動においては、絵画、彫刻、デザイン、工芸等、幅広い領域を体系的、発展的に学習する。
- 自身の意図を視覚化する表現活動と、他者の意図やよさを理解しようとする鑑賞活動を柱とした学習。
- 実際の生活や現代社会の様相、さらに伝統文化を踏まえた学習の計画と実践を行う。

目指す子供の姿

- ・生涯を通して親しめる運動を見つけ、する・見る・支えるなどの多様な関わり方ができる。
- ・自分の考えを他者に伝え、相手の意見を認め、よりよい課題解決につなげることができる。
- ・自己の生活への関心を持ち、健康・安全への意識を高め、生涯を通じて心身の健康が保持増進できる。

●何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

<体育分野>

- 運動の楽しさや喜び、最善を尽くす態度や生涯にわたって実践するための基本的な技能。
- 自他の課題を発見し、課題解決に向けて考えたことを他者と共有する力。

<保健分野>

- 心身の健康の保持増進を目指し、課題の発見や、その解決についての考えを、他者と共有する力。

●何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

<体育分野>

- 運動を通して、その特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わう。
- 自他の課題を発見し、その合理的な解決に向けて考えたことを他者と共有する。

<保健分野>

- 自他の健康に関心を持ち、生涯を通じて健康の保持増進を目指す実践力の基礎を育てる。

子供の実態

- 運動に親しむ意欲、時間の二極化。
- 運動は“するもの”という認識であり、見たり、支えたりすることが苦手。
- 知的好奇心が高いが、自己の生活への関心は低く、考えたり、まとめたり、他者と共有するのが苦手。意欲の二極化。

●何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

<体育分野>

- 運動の行い方や楽しさ、喜びを味わい、基本的な技能と最善を尽くす態度を学習する。
- 運動についての自己の課題等を発見し、合理的な解決に向けて思考・判断し、他者と共有できるように学習する。

<保健分野>

- 自他の健康に関心を持ち、課題へのよりよい解決方法を考え、他者と共有できるように学習する。

●どのように学ぶか

○教育課程の実施

<体育分野>

- その競技について正しく理解させ、ゲーム等の活動を生徒主導で行えるようにする。
- ペア・グループ活動を通して、自分の考えを仲間に伝える機会を増やす。
- 競技をするだけでなく、見る・支えるなど、運動には様々な関わり方があることを伝える。

<保健分野>

- 自身の生活を振り返り、課題や解決方法をペア・グループ活動を通して仲間と共有し、将来へつなげられるようにする。

各教科等のグランドデザイン

技術

目指す子供の姿

- ・情報モラルに関するトラブルを未然に防ぐことができる。
- ・伝統技術を理解し、尊重することができる。
- ・複数の視点で物事を考えることができる。
- ・物事の本質を考えることができる。

など

●何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を解決する力。
- よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度。
- 将来的に科学技術革新を生じさせることの素地である創造力。
- 我が国の伝統や文化に関する知識を習得し、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々と共存しようとする態度。

●何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- テスト
知識や技能の習得状況を評価する。
- 感想文
カリキュラムや授業実践を受けた生徒の意識を評価する。
- レポート
「なぜそのような考えたのか」などの生徒の思考を評価する。

子供の实態

- ・情報モラルが身に付いていない。
- ・伝統技術に触れる機会が少ない。
- ・知識の応用が苦手。(理, 数の活用)
- ・他者と情報を共有する力が不十分。
- ・批判的思考が不十分。
- ・学習意欲が高い。

など

●何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 「材料と加工の技術」
 - 「生物育成の技術」
 - 「エネルギー変換の技術」
 - 「情報の技術」
- ▼
- 四つの内容を通して、それぞれの技術の原理・法則や技能、技術と生活や社会、環境との関わりなどを学習する。

●どのように学ぶか

○教育課程の実施

- Project Based Learning
プロジェクトを設定した、問題解決学習。
- 教科横断な学習
理科や社会科、数学科などに関わる題材の予習・復習・活用となる学習。
- 日本の伝統文化を意識した授業実践
日本の伝統的な技術を取り上げ、緻密なモノづくりの技が日本や世界に与えた影響について考えさせる学習。

目指す子供の姿

- ・学んだことを家庭や社会で生かすことができる。
- ・持続可能な社会の形成者としての意識を持てる。

●何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 学んだことを生活で生かすことができる力
- 課題を見つけ、解決法を考えられる力
- よりよい社会をつくろうとする態度

●何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 生活に関する基礎的な内容に関する知識や技能
- 知識と技能を活用して生活を工夫する力
- より良い生活をつくっていかこうとする態度

子供の実態

- ・学習への関心・意欲は高く、知識も多い。
- ・学んだことを生活で生かす力が弱い。

●何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 生活の中にある伝統文化を重視した題材を編成し、年間指導計画の工夫を図る。
- 「生活文化の継承」の視点を重視する。
- 「家族・家庭」「衣食住」「消費・環境」に関する学習内容に伝統文化に関する学習を取り入れる。

●どのように学ぶか

○教育課程の実施

- 一人一人の生活が、継承されてきた文化の上に立脚していることを踏まえて、学ぶ。
- 教科の学習と生徒の生活との結びつきが図れるように題材の工夫を行う。

目指す子供の姿

- ・グローバルな視点を持ち，社会的な話題について，英語で他者と意見を述べ合ったり，解決策を提案したりできる生徒。

●何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 英語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解し，これらを，実際のコミュニケーションにおいて活用できる力。
- コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて，日常的，社会的な話題について，英語で情報や考えなどを理解し，表現したり伝え合ったりすることができる力。
- 英語の背景にある文化に対する理解を深め，相手に配慮しながら，主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

●何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 単元テスト
(知識及び技能)
- パフォーマンステスト，レポート，ワークシート
(思考力，判断力，表現力)
- 自己評価，振り返りシート
(主体的に学習に取り組む態度)

子供の実態

- ・英語に対する学習意欲は高い。
- ・相手を意識，多様な表現で深く考え，伝え合うことが苦手。

●何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 日本や世界の人々の日常生活，風俗習慣，物語，地理，歴史，伝統文化，自然科学などに関するものの中から，学年に応じ，生徒の興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げる。

●どのように学ぶか

○教育課程の実施

- 聞くことへの力や表現力を高めるために，基礎英語を聞く。
- 話すこと（やりとり・発表）のパフォーマンステストを定期的に行う。
- 3学年共通帯学習（BINGO，即興対話活動）を行う。

目指す子供の姿

- ・自己のコミュニケーション能力を振り返り、他者の様々な考え方や価値観を考えながら、思いやりのある言葉かけなどについて判断することができる。

●何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 他者理解を深め、異文化を大切にしようとする心や価値観の違いを認め合う心。
- 日本には昔から相手を思いやることを大切にする伝統文化が続いており、誇りを持って世界に発信していける力。

●何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 思いやりの心に関心を持ち、グループ活動に積極的に取り組むことができるようにする。
- 自己のコミュニケーション能力を振り返り、他者の様々な考え方や価値観を考えながら、思いやりのある言葉かけなどについて判断することができるようにする。

子供の実態

- ・対人関係のトラブル等、精神面で課題を抱えている生徒が多いが、問題解決の方法を自ら考え、対処していくことが困難な状況がある。

●何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 「日本人の心に関すること」を重点的に取り組む。
- 日本の精神文化と言われる茶道の「茶の心」を題材として、相手への思いやりの心を育む。
- 人をもてなす心、思いやりの心が脈々と受け継がれてきた日本の伝統文化を理解し、誇りに思う気持ちを育てる。

●どのように学ぶか

○教育課程の実施

- 友達のと自分の考えを比較し、いろいろな考え方があることを知るためにグループ活動を実施する。

目指す子供の姿

- ・自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒。

●何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 自分を律しつつ、自分に関わる人の思いに気づき、思いやりの心を持ち、他者との相互理解を図りながら、よりよい人間関係を築いて共に生きていこうとする態度。

●何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度。
 - 教師が生徒の授業の様子を見取る。
 - 生徒が「心のあしあと」で1時間ごとの授業を振り返るようにする。

子供の実態

- ・何ごとにも真面目に取り組み、自分で考えて行動できるが、周りを見て合わせて行動することができないところがある。

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度について考える。
- 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度について考える。
- 特別活動や各教科等、学校教育活動全体で連携して取り組む。

●どのように学ぶか

○教育課程の実施

- 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習。
- 問題解決的な学習。
- 道徳的行為に関する体験的な学習。

各教科等のグランドデザイン

総合

目指す子供の姿

- ・自分が調べたことや各教科等の学習内容など、様々な情報をつなげ、地域や社会をよりよくする提言ができる。
- ・自己のキャリア形成に関わって、自分が社会の一員としてどのように特性を発揮していくか、見通しを持つことができる。

●何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 情報を収集し、必要な情報を取捨選択し、主体的に自分の考えをまとめ、情報を発信することができる力。
- 自分の将来をみつめるために、職業について主体的に調べたり考えたりすることができる力。
- 自分の興味・関心に基づいて課題を見つけ、その課題について主体的に調べたり、考えたりすることができる力。

●何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 正しくより良く分かりやすく、自分の考えを発信できたかを振り返る。
- 将来を見通して、現在の自分を振り返って、今、自分にできることを考える。
- 差別や偏見のない職業観と、働くことの意義や大切さを含んだ勤労観、社会や地域の一員としての自覚や責任感がどの程度身についているか評価する。

子供の実態

- ・情報の取り扱いについて、正しい知識の不足が見られる。
- ・自己決定力が弱い生徒が見られる。
- ・現状から課題を見だし、自分なりの解決策を考えることはできるが、それを分かりやすく伝えることが苦手な生徒もいる。

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 情報の取扱いについての科学的理解と、情報を取扱う際のルールやマナー、必要な情報を取捨選択する基準や方法を学ぶ。
- 自分の考えをまとめる手順と、情報を発信する方法を学ぶ。
- 職業に対する幅広い知識を身に付け、それぞれの職業に就いている人が持つ勤労観や職業観に触れる。
- 金沢や自分が住む地域が持つ特性や課題を踏まえ、自分の考えをまとめる際の根拠の示し方を学ぶ。

どのように学ぶか

○教育課程の実施

- 「附中事典をつくろう」などの調べたことをまとめるレポートの作成を通して、PCの基本的操作と、情報の取扱いについてのルールやマナーを学ぶ。
- 附中検定の作成とその発表などにおいて、モデルファイルを基にすることで、自分の考えをまとめ、発信する手順と方法を学ぶ。
- 職業人講話や職業体験を通して、身近な大人から、職業に対する考え方と、勤労観などを学ぶ。
- 教員がある程度まとめた金沢の特性や課題を基に、自分でも金沢や自分が住んでいる地域の課題を見い出す。
- 提案書のテンプレートに従って、自分の考えを整理し、教員と話をしながら根拠を明確にしていく。また、様々な教科等からもまとめ方についてのアプローチを行う。